



☆☆ ☆道路占用Q&A



◆◇◆災害応急対策移動施設の道路の占用について◆◇◆

(国土交通省 道路局 路政課 道路利用調整室)

災害応急対策移動施設の道路の占用について解説する。



☆☆ ☆地域における道路行政に関する取組み事例



★国道4号北上拡幅、国道46号盛岡西バイパスの全線4車線開通について★・*:.。

(国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所)

今年度、岩手県内では国道4号北上拡幅および国道46号盛岡西バイパスが、いずれも全線4車線で開通しました。これらの事業は昭和50年代から取り組んできたものであり、これまで長きにわたり、地域の皆さまから多大なるご理解とご協力をいただきながら進めてきたものです。本稿では、両事業が全線開通に至るまでの歩みを振り返るとともに、今後期待される効果についてご紹介します。



★「都城志布志道路」の全線開通半年後の整備効果★°・*:.。

～交通利便性向上と志布志港へのアクセス強化による物流効率化～

(鹿児島県 土木部 道路建設課)

鹿児島県大隅地域では国や宮崎県と連携して「都城志布志道路」の整備が進められ、延長約44kmの高規格道路として令和7年3月に全線が開通しました。本稿では、全線開通から約半年後に実施した交通実態調査や住民・事業所・来訪者へのヒアリング・アンケート調査の結果を踏まえ、交通状況の変化と開通効果を御紹介します。



★道路を起点に地域の未来をつくる★°・*:.。

— 道の駅とくのしまに見る離島型道路行政と地域拠点形成 —

(鹿児島県 徳之島町 企画課)

道の駅とくのしまは、離島における道路を単なる移動手段ではなく、産業・観光・防災を支える地域拠点として再定義しています。道路行政と観光振興を一体的に進め、交流促進や地域経済波及を生む離島型道路行政モデルを示す取り組みです。



☆☆ ☆編集後記



数か月前から、雪国に居を構える友人を訪ねる計画を立てていました。訪問当日、日本列島には強い寒気が流れ込み、現地は警戒級の暴風雪とのこと。搭乗予定便は、現地の天候調査を数度にわたって実施し、遅延に次ぐ遅延。着陸が難しい場合は引き返すという条件付で、ようやく出発が決まりました。目的地は、就航率 99.5%を誇る空港なので、飛んでしまえば何とかなるだろうと思っていましたが、ひとつ前の便は着陸できずに引き返したと聞き、引き返す覚悟をもって搭乗しました。結果、無事に着陸。胸をなで下したのも束の間、空港から友人宅へ向かう道中で、人生初のホワイトアウトを経験することとなりました。

視程が制限されるなか、車窓の外は一面真っ白。そんな景色の中に、下を向いた赤と白の矢印が宙に浮かんでいるのが見えました。それは、積雪地帯に設置される吊り下げ式視線誘導標とよばれ、道路の外縁を示すものでした。積雪や吹雪によって路面標示が確認できない場合でも、ドライバーが道路線形を連続的に把握できるように設置されています。夏に何度か訪れたことはあり、その存在は認知しておりましたが、実際にその活躍の場に居合わせたのは初めてのことで、長年の経験と事故防止の知恵の積み重ねを感じました。

滞在中の外気は、経験したことのない氷点下 20 度の世界。手袋をしていても手指の冷えは容赦ありません。自宅の前は、除雪が必要なほどの雪が降り積もり、初めて手にするスノースコップやスノーダンプ。どこに雪を運べばよいのかもわからず、見よう見まねで雪かきを手伝いましたが、戦力になっていたかどうかは心許ないところです。かいてもかいても降り積もる雪。どこに行っても雪かきに励む姿があり、日々雪と向き合う暮らしがあることを実感しました。数日の滞在ではありましたが、春の訪れを待ちわびる気持ちを、ほんの少しだけ体感した時間でもありました。

雪かきや雪下ろしは、時に命に係わる危険を伴うと聞きます。慣れているからと過信することなく、どうかくれぐれもお気をつけください。(U)